

になりましたのを、そのまゝ六圖の線の通りに切り、丁寧（ていねい）にひろげ「イ」の所（ところ）を持つてさげてごらんなさい、この出来上（できあがり）つた圖（ず）は、わざと出（だ）しますまい、皆さん（みな）が切（き）つてごらんなさる、おたのしみにも。

最も善（よ）き紹介（しょうかい）状（じょう）

小西（こにし）信八（のぶやち）

自分（じぶん）を知（し）つたこと（こと）の無（な）い人（ひと）に向（むか）つて何（なに）事（こと）か頼（たの）まうとする時（とき）に、其人（そのひと）を知（し）つて居（い）る人（ひと）に手紙（てがみ）を書（か）いて貫（ぬ）つて行（い）くを通例（つうれい）の事（こと）と致（いた）しますが、この手紙（てがみ）を紹介（しょうかい）状（じょう）と申（まう）します。

ある紳商（しんしょう）が小僧（こそう）を雇（か）はうとして廣告（こうこく）を致（いた）しました、そゝするど殆ど（ほとんど）五十人（ごじゅうにん）の子僧（こそう）が其（その）募（もつ）に應（おこ）じよゝとして寄（よ）つて來（き）ました中（なか）より一人（ひとり）を選（えら）んで取（と）り他（た）は悉（ことごと）く斷（こと）はつて歸（か）えしました。

そこで一人（ひとり）の友人（ゆうじん）が紹介（しょうかい）状（じょう）も無（な）い者（もの）を何（なん）の譯（わけ）で雇（か）つたかと尋（たづ）ねますと、紳商（しんしょう）が申（まう）したには其（その）君（きみ）の誤（あやまり）というもの（もの）だ、此（この）子僧（こそう）わ澤山（たきさん）の紹介（しょうかい）状（じょう）を持（も）つて居（い）るでわなにか、先（まづ）彼（かれ）が予（よ）の宅（たく）に入（い）つた時（とき）よく足（あし）を拭（ぬ）い戸（と）を締（し）めた、これわ彼（かれ）が物事（ものごと）をするに順（じゆん）が立ち又（また）奇麗（きれい）すぎである證據（しやうこ）だ、跛（び）の老人（らうじん）に席（せき）を譲（ゆづ）つたのわ親切（しんせつ）の證據（しやうこ）でないか、宅（たく）に入（い）つて帽子（ぼうし）を脱（ぬ）ぎ予（よ）の問（と）に速（すみ）に丁寧（ていねい）に答（こた）えたわ行儀（ぎやうぎ）のよい證據（しやうこ）でないか、予（よ）が態（わざ）と板（いた）の間に書物（しよぶつ）を置（お）きて多（おほ）くの子僧（こそう）が如何（いか）するかを試（こころ）みたのに皆（みな）踏（ふ）み越（こ）えて來（き）た、然（しか）るに彼（かれ）一人（ひとり）わ之（これ）を机（つくえ）の上（うへ）に取（と）り上げて徐（じゆ）かに來（き）つたのは注意（ちゆうい）深（ふか）き證據（しやうこ）でないか、自分の番（ばん）の來（き）るまで静（しづ）かに待（まち）つて居（い）つて多（おほ）くの者（もの）の様に他人（たにん）を押（お）しのけて來（き）なかつたのは温良（おんりやう）の證據（しやうこ）でないか、衣服（いふく）には頭垢（あたまか）や塵（ちり）が拂（はら）つてあり、頭髮（かみのけ）

はよく梳してあり、其齒は雪の如く白く見え、自分の名を書かせた時に墨を摺り飛ばさず、又指を汚さなかつたわ不精者や不注意者の出来る事でない、して見れば僅かに十分間であるもの、予が視察した所は、賛辭の溢れるばかりの數十本の紹介状に勝るは万円でわあるまいか？！

一口ばなし

近眼と石地藏

或時近眼が石地藏の前へ來まして、(近眼)アノ一寸お尋申します、この次の町までの位ごぞいますか。(地藏)……………(近眼)もしく次の町までは まだどの位ごぞいますか(地藏)……………(近眼)はてなこの人は聾か知らん、もしく、これは怪しからん人に散々物を言はせておいて 何時

までも黙つて居る、怒つた機会に石地藏の頭に駐つて居た鳥が飛んだのを見て(近眼)人に道を教へないから、僕も帽子の飛んで行つたのを知らせて遣らないんだ。

前號考(物の解)

- (一) Untie (結び付けること)と云ふ言葉の中、一字だけ體代へると全く反對の語になるのは。答。いと
- (二) 自分を置代へるの Untie (はご)となりませす。
- (三) 自分のものであつて、自分よりも友達に多く使はれるものは、答。自分の名。
- (三) 背の高い人は、いつも怠者だといはれる譯は。答。寢床へ這入ると、いつでも人よりも長いから。